

小城市江里山地区

棚田ボランティア・草刈り作業(佐賀県農業土木振興会)に参加

西日本総合コンサルタント(株)

佐賀県庁の農業土木職員OBでつくる「佐賀県農業土木振興会」(牛草寛志会長、会員21人)は令和3年9月9日、彼岸花で有名な佐賀県遺産の「小城市・江里山の棚田」において耕作放棄された田圃等の草刈り作業の棚田ボランティアをおこなった。活動には会員16人が参加し、当社から内野政則常務取締役と山口鶴美技術管理部長の2名が参加しました。



(江里山地区の皆さんとボランティア参加者との集合写真・江里山公民館前)

当会は、令和2～4年度の3カ年間、江里山地区と草刈り作業〈年2回〉の棚田ボランティア協定を締結されています。

今回、牛草寛志会長をはじめ16名の参加で今年第2回目の作業実施となりました。江里山地区は、約230メートルの標高に位置し、高齢化、離農等で耕作放棄地が増加し、棚田の維持等が課題となっています。

既に棚田では丁度、道端や田んぼの畦畔に赤の彼岸花が咲き始め、稲穂の黄

色とのコントラストが美しく参加者から「空気がとてもおいしい、心が癒される」といった言葉が聞かれた。一昨年は台風来襲、昨年は新型コロナウイルス感染予防のため、2か年間、「江里山彼岸花まつり」が中止されていたが、今年は、9月19日に開催されることが決定されている。すでに、彼岸花が咲き始めたことから、カメラを抱えた花見客が訪れていた。



（牛草寛志会長の挨拶）



（秀島区長の挨拶と作業説明）

当日は、天気がよく、作業は、2班に分かれ、地区の役員と一緒に耕作が行われていない約25枚程度（約2ha）の田圃の草刈り作業、イノシシ防護柵のカズラ撤去等を行い心地よい汗をかいだ。昼食後、公民館で江里山地区の秀島区長らと参加者との間で棚田の課題、感想、意見交換などが活発に行われた。



耕作放棄地の草刈り作業





江里山棚田の彼岸花・実りの圃場（夢しずく、さがびよりの品種）